

c 爬虫類

重要な種として、トカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシが抽出された。

抽出結果は、表5-2-1-10-42、各種の確認状況及び一般生態は、表5-2-1-10-43に示すとおりである。また、確認位置は、図5-2-1-10-15(1/4)～(4/4) (P. 451～454)に示すとおりである。

表 5-2-1-10-42 重要な爬虫類一覧

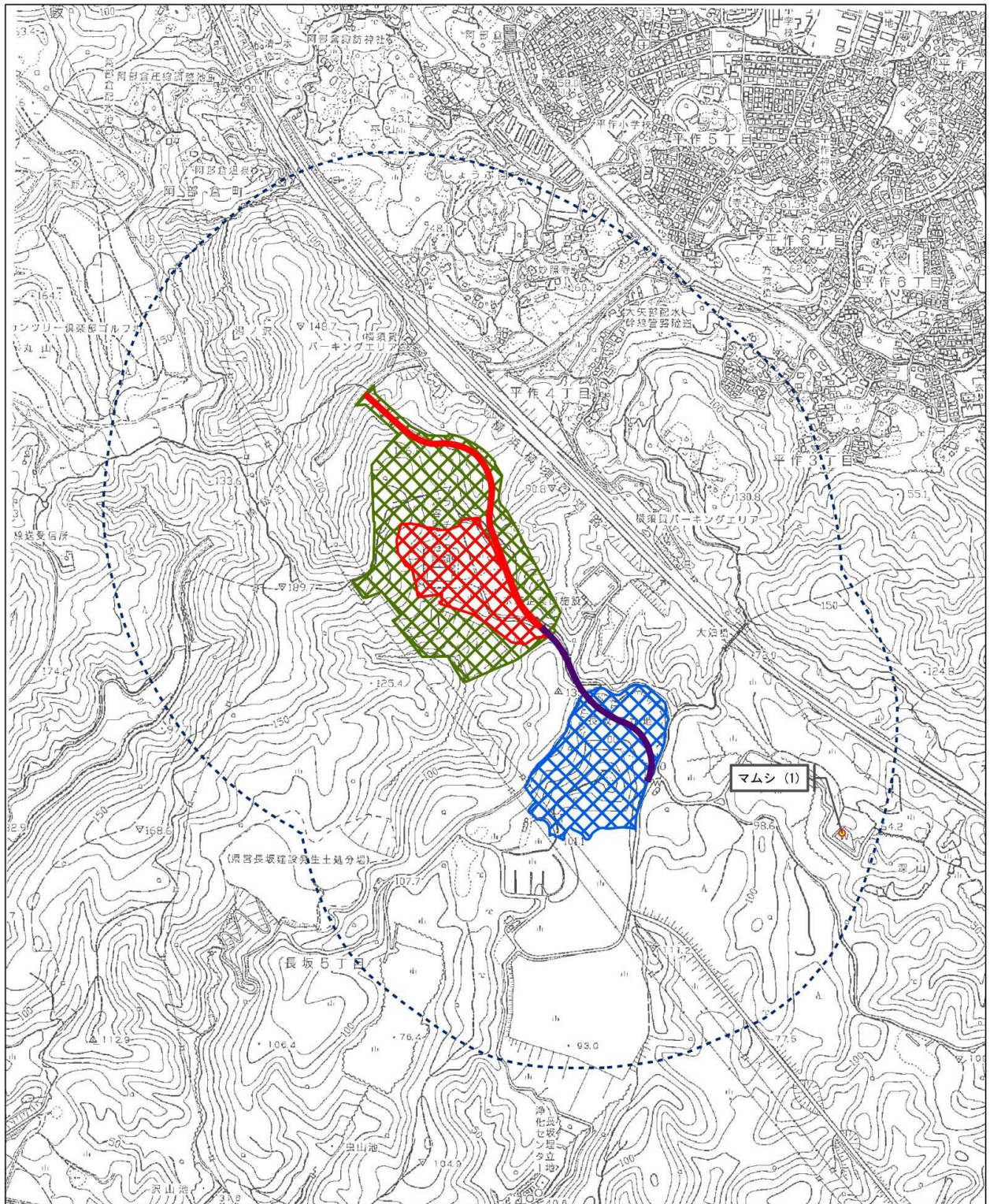
番号	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	トカゲ	トカゲ				要注意種
2	ヘビ	シマヘビ				要注意種
3		アオダイショウ				要注意種
4		ヤマカガシ				要注意種
5	クサリヘビ	マムシ				要注意種
合計	3科	5種	0種	0種	0種	5種








注) 重要な種の選定基準は、表5-2-1-10-37(P. 428)に示すとおりである。

表5-2-1-10-43 重要な爬虫類の確認状況及び一般生態

種名	項目	内容
トカゲ	確認状況	春季に、実施区域内（宅地の造成）の林道沿い及び実施区域内（既設改修道路）沿いで幼体を確認された。
	一般生態	日当たりの良い石の下や石垣の隙間、土手の斜面の穴などにすみ、ミミズやクモ、昆虫などを捕食する。 国内では本州～九州にかけて分布する。 県内では、都市部、市街地を除く全域に生息すると思われるが情報不足。
シマヘビ	確認状況	秋季に、実施区域の周辺の林道で脱皮殻が確認された。 春季に、実施区域の周辺の法面草地で成体を確認された。
	一般生態	開けた平地から山地の林縁部など、明るい環境を好む。動きは俊敏で、カエルを多く食べるが、他にも、ネズミ、鳥類の卵やヒナ、ヘビ、トカゲなどさまざまな動物を捕食する。 国内では北海道～九州にかけて分布する。 県内では、都市部や丹沢の高標高地を除く地域に生息すると思われるが、情報不足である。
アオダイショウ	確認状況	鳥類4月調査において、実施区域の周辺の林道上で幼体の死骸が確認された。
	一般生態	山地の林から平野部までさまざまな環境にすむ。 国内では北海道～九州にかけて分布する。 県内では、都市部を除く県内全域に広く分布していると思われるが、情報不足。
ヤマカガシ	確認状況	昆虫類6月調査において、実施区域の周辺の沢で死骸が確認された。
	一般生態	平地から山地の水田や小川、湿地等に多い。動きは活発で主にカエルを捕食する。また、水中でオタマジャクシや小魚も捕食する。 国内では本州～九州に分布する。 県内では、全域で見られるが、情報不足の地域もある。
マムシ	確認状況	夏季に、実施区域の周辺の草地で幼体が1個体確認された。
	一般生態	林や藪などの林床や田畑の畦、水辺などに生息し、ネズミやカエルを主とし、ヘビ、トカゲ、小鳥、魚など小型の脊椎動物を捕食する。 国内では北海道～九州にかけて分布する。 県内では、主に西部に分布しているが、他の地域については情報不足である。

出典：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）



凡例		: 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
		: 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
		: 発生土処分場
		: 調査範囲
		: 新設搬入道路
		: 既設改修道路
		: 重要な種の確認地点
	※ ()内の数字は確認個体数を示す。	
注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。		

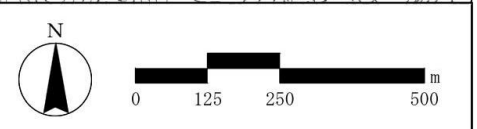
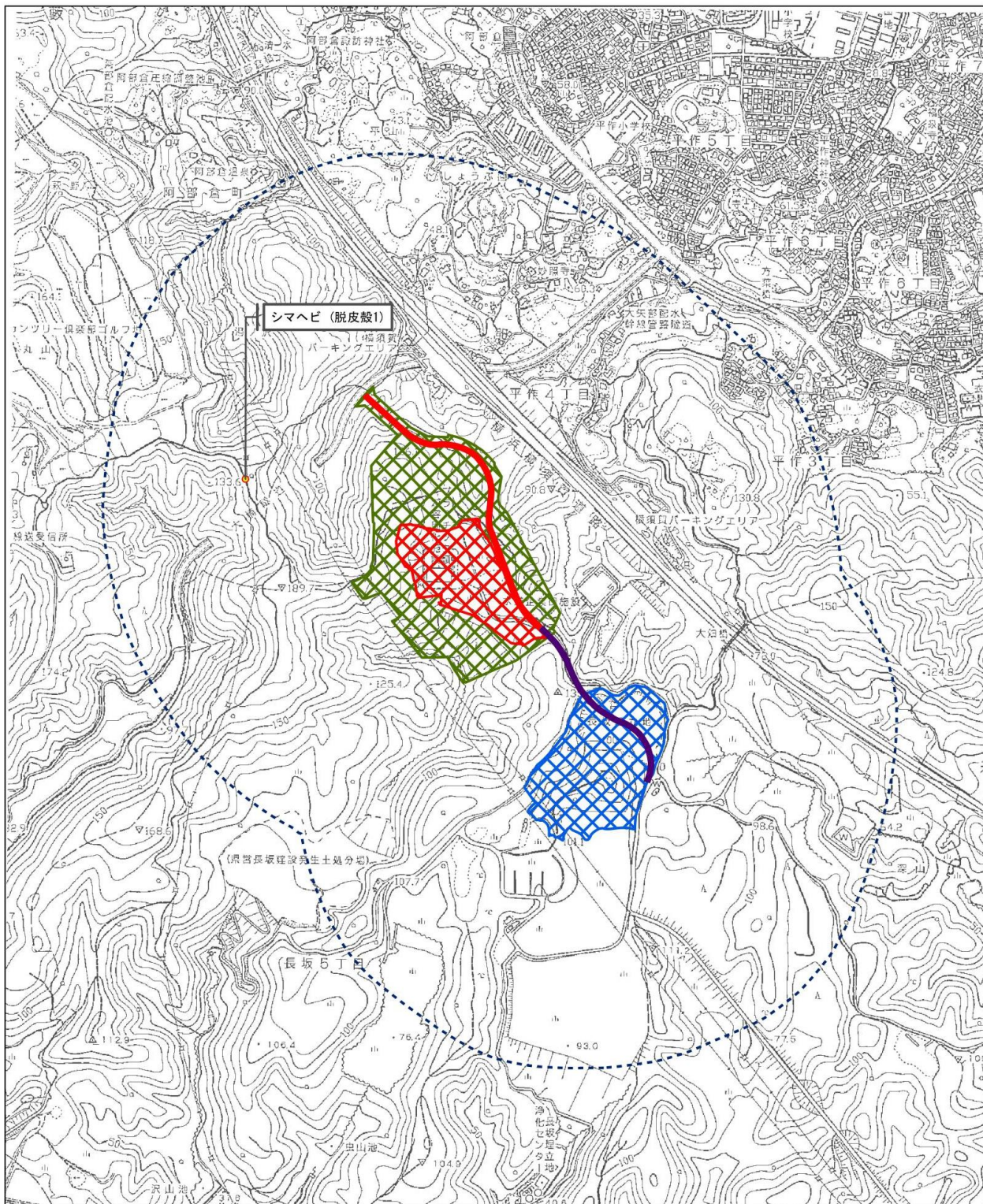


図 5-2-1-10-15 (1/4)
重要な爬虫類の確認地点 (夏)



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な種の確認地点 ※ () 内の数字は確認個体数を示す。 <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>
--	--

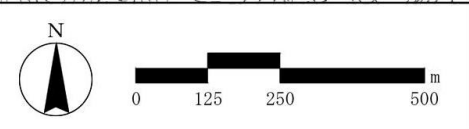
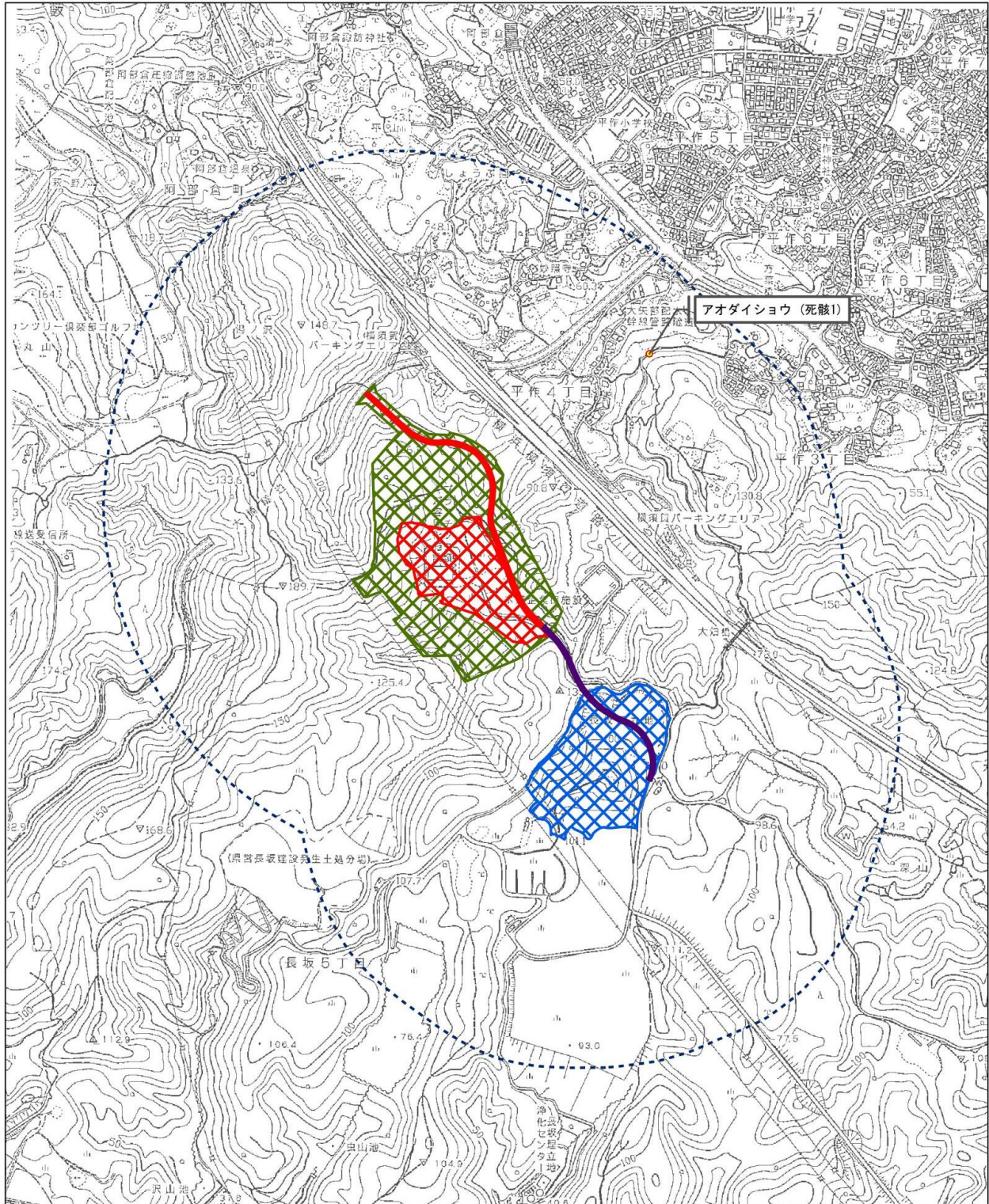


図 5-2-1-10-15 (2/4)
重要な爬虫類の確認地点 (秋)



- 凡例**
- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 - : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
 - : 発生土処分場
 - : 調査範囲
 - : 新設搬入道路
 - : 既設改修道路
 - : 重要な種の確認地点
- ※ () 内の数字は確認個体数を示す。
- 注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

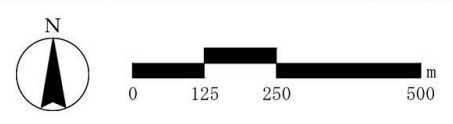
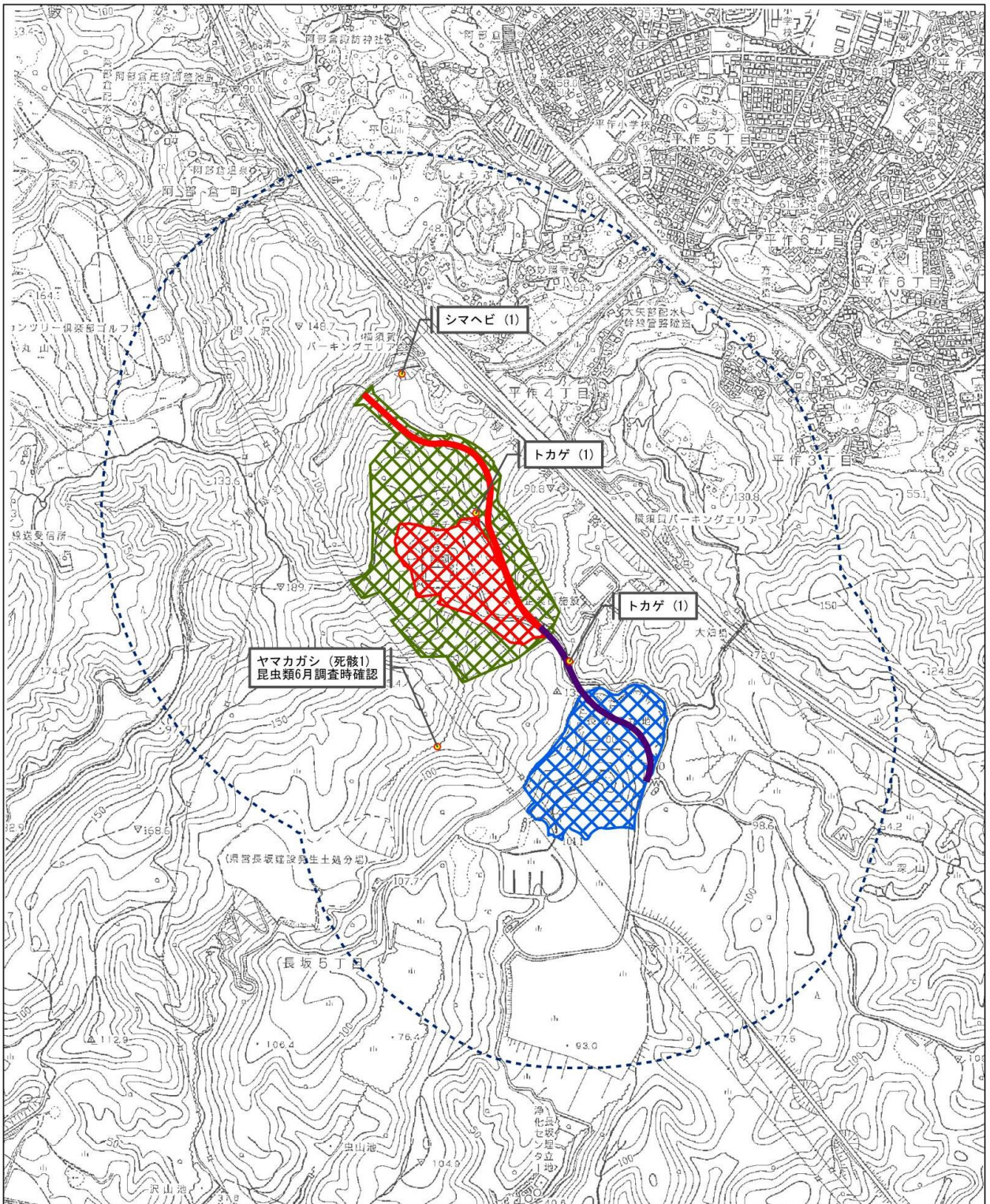


図 5-2-1-10-15 (3/4)
重要な爬虫類の確認地点 (早春)



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> : 重要な種の確認地点 <p>※ () 内の数字は確認個体数を示す。</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>	<p>N</p> <p>0 125 250 500 m</p>
<p>図 5-2-1-10-15 (4/4) 重要な爬虫類の確認地点 (春)</p>		

d 両生類

重要な種として、両生類はニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルが抽出された。

抽出結果は、表 5-2-1-10-44 に、各種の確認状況及び一般生態は、表 5-2-1-10-45 に示すとおりである。また、確認位置は、図 5-2-1-10-16 (1/3)～(3/3)に示すとおりである。

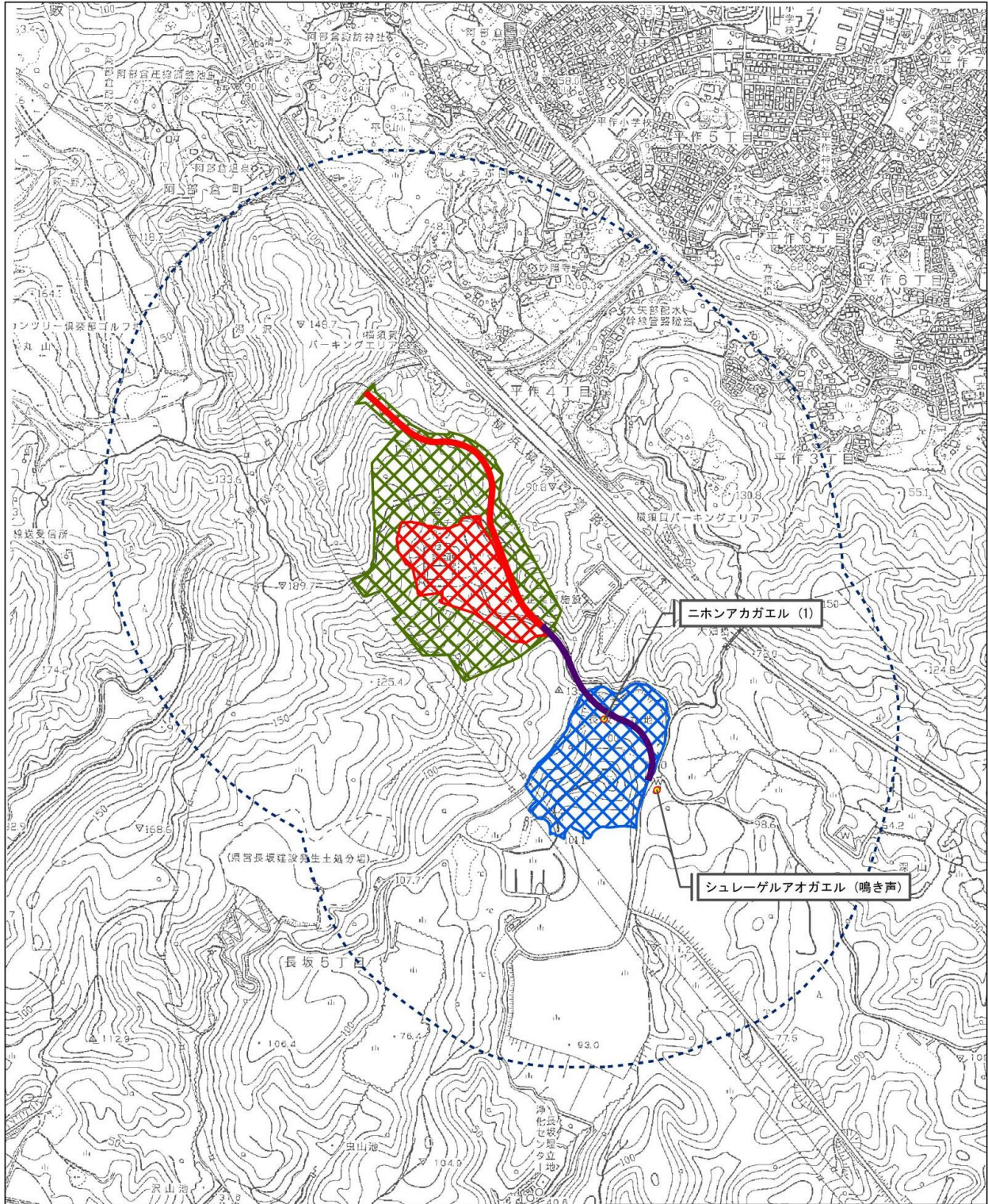
表5-2-1-10-44 重要な両生類一覧

番号	科名	種名	選定基準			
			①	②	③	④
1	アカガエル	ニホンアカガエル				絶滅危惧Ⅱ類
2	アオガエル	シュレーゲルアオガエル				要注意種
合計	2科	2種	0種	0種	0種	2種

注) 重要な種の選定基準は、表 5-2-1-10-37 (P. 428) に示すとおりである。

表 5-2-1-10-45 重要な両生類の確認状況及び一般生態

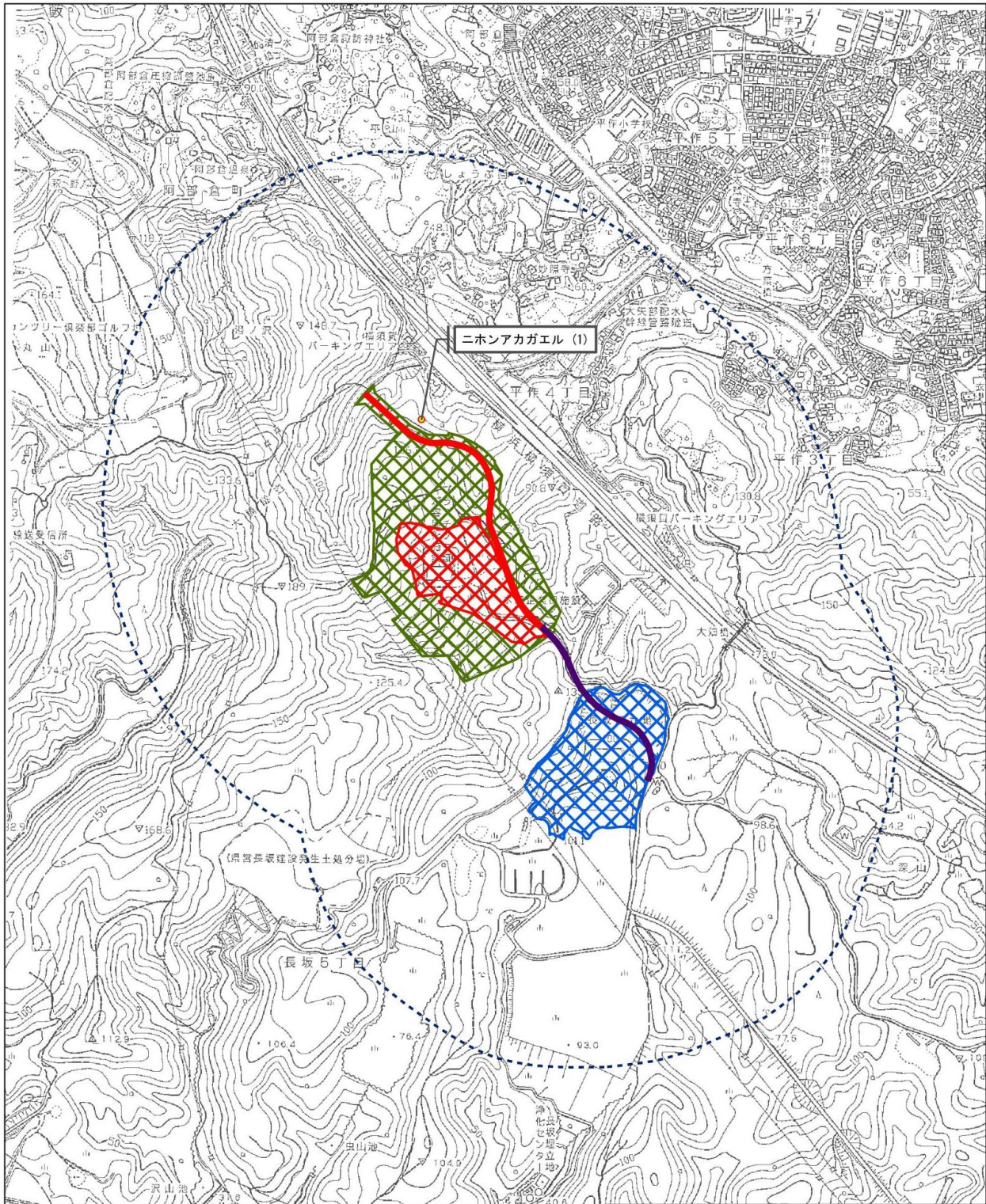
種名	項目	内容
ニホンアカガエル	確認状況	夏季に、実施区域内（発生土処分場）の草地で幼体を確認された。 秋季に、実施区域の周辺の林床で成体を確認された。
	一般生態	平地から丘陵地の雑木林の林床に生息し、本州のカエルでは一番早く産卵を開始する。神奈川県では2月初めから水田や浅い水溜まりなどの止水域で産卵が見られ、産卵後には一時休眠する。 国内では本州から四国、九州と壱岐、大隅諸島に分布する。 県内では、横浜市、茅ヶ崎市、秦野市、大磯町、愛川町に分布する。他にも生息地が存在するが、情報不足である。
シュレーゲルアオガエル	確認状況	春季に、実施区域内（発生土処分場）と実施区域の周辺で鳴き声を確認された。 夏季において、実施区域の周辺の池で鳴き声を確認された。
	一般生態	平地から山地の主として広葉樹の林に生息する緑色のカエルで、繁殖期には湿地の岸辺や水田の畦などの土中に、泡に包まれた卵塊を産み、孵化した幼生は水中に泳ぎだして成長する。 国内では本州～九州にかけて分布する。 県内では、東部～西部にかけて分布する。他にも生息地が存在すると思われるが、情報不足である。









凡例	: 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)	: 重要な種の確認地点
	: 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))	※ () 内の数字は確認個体数を示す。
	: 発生土処分場	
	: 調査範囲	
	: 新設搬入道路	
	: 既設改修道路	

図 5-2-1-10-16(1/3)
重要な両生類の確認地点 (夏)

注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。



- 凡例
-  : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
 -  : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲))
 -  : 発生土処分場
 -  : 調査範囲
 -  : 新設搬入道路
 -  : 既設改修道路
- 重要な種の確認地点
- ※ () 内の数字は確認個体数を示す。
- 注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

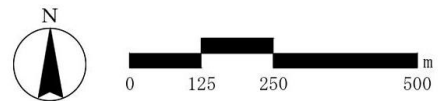
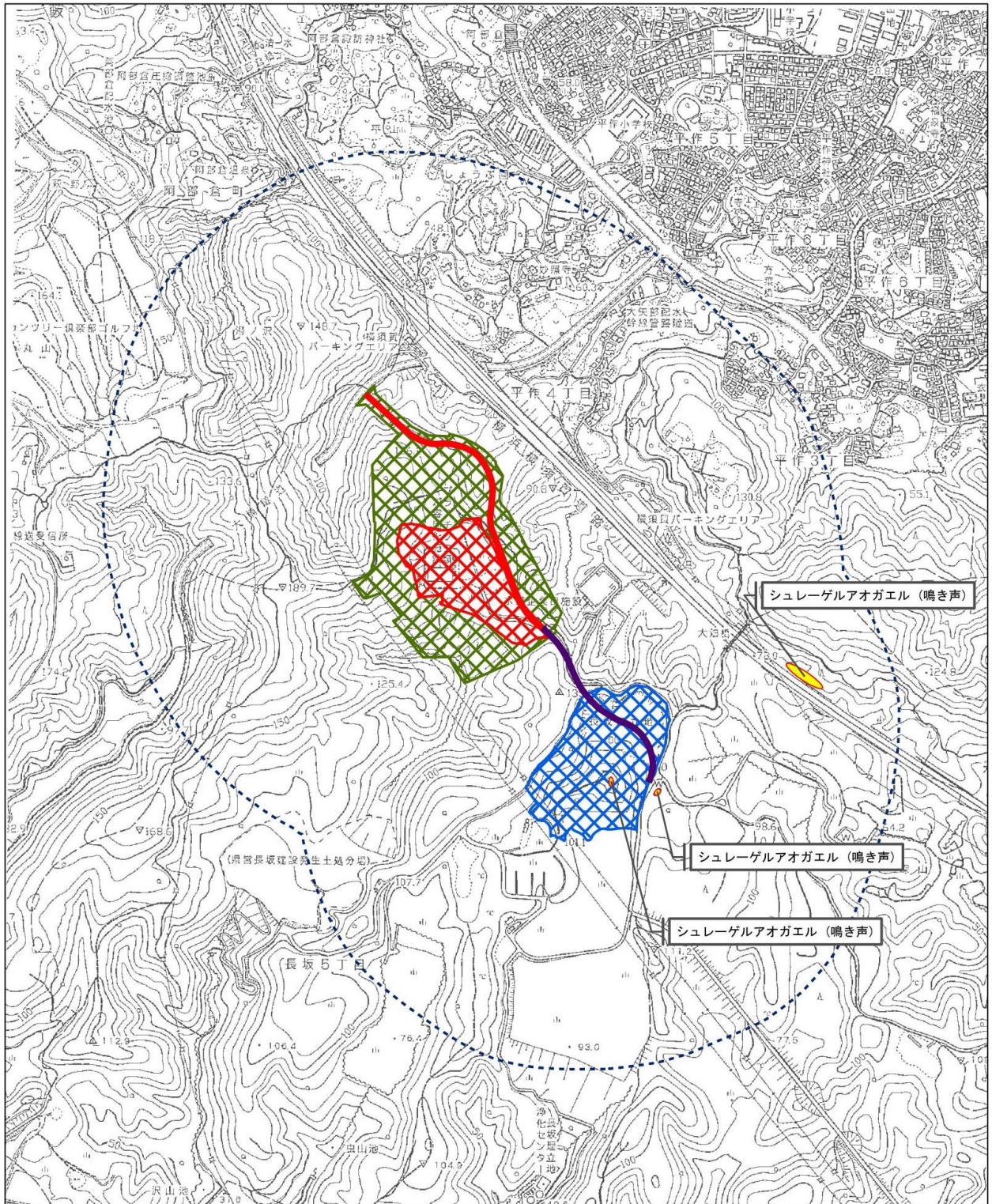


図 5-2-1-10-16 (2/3)
重要な両生類の確認地点 (秋)



<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む) : 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) : 発生土処分場 : 調査範囲 : 新設搬入道路 : 既設改修道路 	<ul style="list-style-type: none"> : 重要な種の確認地点 : 重要な種の鳴き声確認地点 <p>※ () 内の数字は確認個体数を示す。</p> <p>注) 宅地の造成 (残置森林 (最大範囲)) には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。</p>	<p style="text-align: center;">N</p> <p style="text-align: center;">0 125 250 500 m</p>
---	--	---

図 5-2-1-10-16 (3/3)
重要な両生類の確認地点 (春)